

「痛みの専門医」 に相談を

当院では痛み治療の専門医複数名が、痛み全般の治療に対応しています。がん患者さんの痛みに対する神経ブロックはまだあまり普及しておらず、その適応があるかどうかは専門医でなくては判断できないのが現状です。最近痛み止めを飲み始めたけど増やしたくない、痛み止めの効果が今ひとつ、どんどん痛み止めが増えていくのが心配、副作用が強くて困っているなどの心配事がある方や、鎮痛薬を減らして生活の質を向上させたい方は、主治医の先生に「痛みの専門医（ペインクリニック外来といいます）」受診を相談してみてください。

がん患者さんの痛み治療には主治医との連携が不可欠です。必ず、主治医の先生を介して受診してください。先生に言い出しにければ看護師さんに相談してください。神経ブロックが適応ではない痛みでも、痛み止めの、より効果的な使用方法をご提案します。

がんが痛みの直接の原因でない場合（頭痛、腰下肢痛など）は、強い鎮痛薬は効果がなく、害ばかり出る場合があります。適切な治療方法を提案しますので、遠慮なくご相談ください。

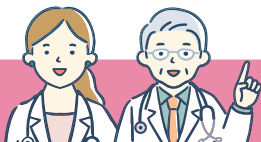


相談の流れ

1 患者さん



2 担当医



▼ 下記のどれでも可能 ▼

① ペインクリニック外来初診予約

※院外の場合：病診連携から

② ペインクリニック外来担当医に直接連絡

※院外の場合：病院代表からの呼び出し

③ 緩和ケア外来担当看護師に連絡

（ペイン外来担当医への連絡のみとなります）

※院内外共通



岐阜大学医学部附属病院
GIFU UNIVERSITY HOSPITAL

病診連携



058-230-7033

[受付時間] 平日 / 8:30~17:00

病院代表



058-230-6000

[受付時間] 平日 / 9:00~17:00

緩和ケア
センター



058-230-7036

[受付時間] 平日 / 9:00~15:00

痛みがある がん患者の方へ

— よりよい生活のための鎮痛方法 —

神経ブロック編

緩和ケアチームからのご提案



まずは、主治医の先生にご相談ください

岐阜大学医学部附属病院麻酔科疼痛治療科

岐阜大学医学部附属病院緩和ケアセンター

神経ブロックとは

神経ブロックとは、痛みを伝える特定の神経に薬剤や高周波を作用させることで一時的あるいは長期的に痛みの伝達を遮断し、痛みを軽減することを目的とした治療方法です。がんによる痛みに対しては、神経破壊薬や高周波熱凝固を用いて、半年から1年の長期間にわたり効果が得られるようにします。神経ブロックだけで完全に痛みをとることはできませんが、強い鎮痛薬を減らすことができ、薬の副作用を減らすことができます。

よくあるご質問

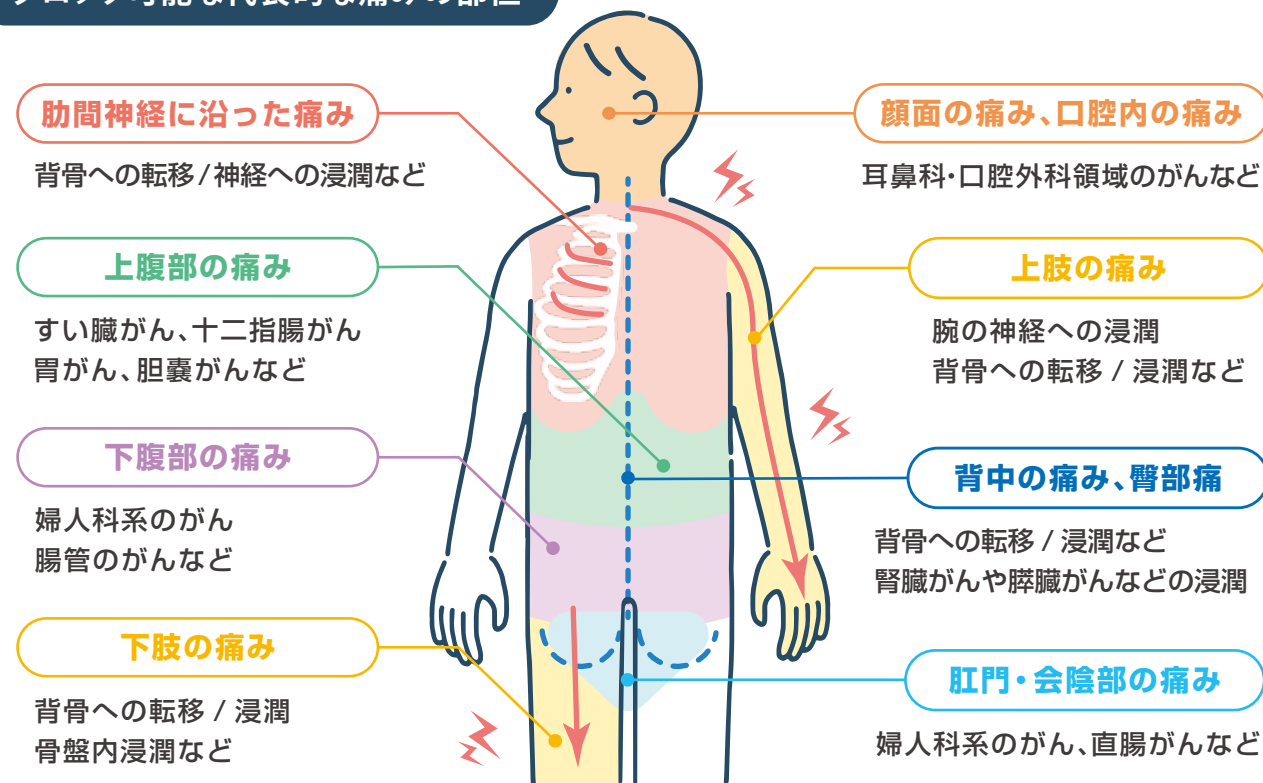
- Q 治療は痛みますか？**
局所麻酔で行います。痛みを伝達する神経の近くにくると、痛みが出ることがあります。
- Q 副作用はありますか？**
注射部位の痛みや腫れ、しびれなどが起こることがあります。重大な副作用はまれです。
- Q 何回もやらなくちゃいけないですか？**
がんが直接の原因である痛みに対しては、長期間効果が出るブロックを行います。半年から1年後に効果が弱くなってきたら、再度行うことができます。
- Q 他の治療と併用できますか？**
可能です。多くの場合、他の鎮痛法と組み合わせて総合的な治療計画の一部として用いられます。

がん患者さんへの痛みの治療：新たな選択肢「神経ブロック」

がんによる痛みに対しては強力な鎮痛薬（医療用麻薬と呼ばれています）を使うことが一般的ですが、副作用として眠気やふらつき、吐き気が出ることがあります。自動車の運転も禁止されています。お薬を減らすために、神経ブロックが役立つことがあります。神経ブロックは、がんそのものを治す治療ではなく、がんによる痛みを和らげるための方法で、がんの治療と並行して行うことができます。早めに行うことで、より長く生活の質を保つことができます。痛みが強くなってから行くと、強い鎮痛薬を使用しても取れなかった痛みが軽減し、鎮痛薬の量を減らすこともできます。



ブロック可能な代表的な痛みの部位



● ● ● ● ⚠️ ブロック可能な痛みの場所は他にもあります ● ● ● ●

POINT!

神経ブロックの適応がない痛みでも、専門家がより良いお薬の使用方法を提案いたします。がんが直接の原因ではない痛みでお困りの方もご相談ください。